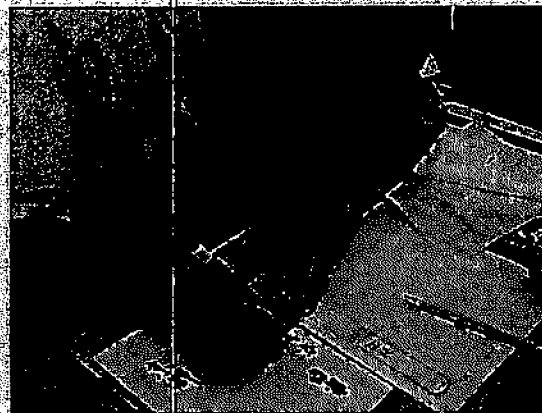
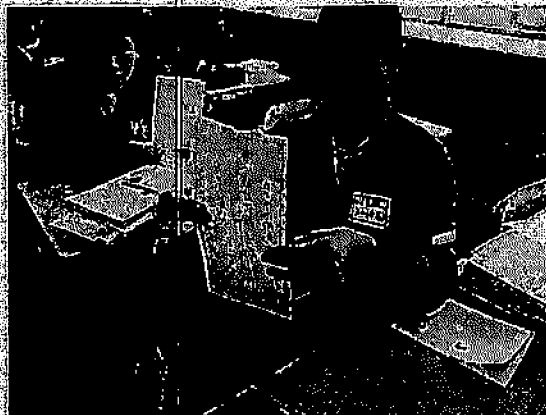


研究主題

# 生きる力を育む書写教育のあり方

—相手意識・目的意識をもって伝え合う力の育成をめざして—



印旛地区教育研究会 第1部会 平成30年 8月28日(火)

発表者 佐倉市立白銀小学校 関 亮子  
佐倉市立臼井南中学校 佐々木育美

# 研究主題 生きる力を育む書写教育のあり方

—相手意識・目的意識をもって伝え合う力の育成をめざして—

発表者 佐倉市立白銀小学校 関 亮子  
佐倉市立臼井南中学校 佐々木育美

## I 研究主題について

学習指導要領では、国語科の目標を次のように示している。

「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」

書写について、小・中学校ともに国語科の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の(2)に位置づけられている。そのねらいは、国語の基礎能力として、文字を正確に理解し表現する能力を養うとともに、文字に対する関心を深め、文字感覚を養い、文字を尊重する態度を育てることである。具体的には、小学校では文字を書く基礎になる姿勢、鉛筆や筆の持ち方、点画や一文字の書き方から始め、目的に応じた書き方へと指導し、日常生活や学習に生かせる書写の能力を育成することとしている。さらに、中学書写では、楷書や行書の特徴をふまえ、書写を選択して書くことができるようになることをもめざしている。

国語科書写においては、この目標の実現に向けて、技能・能力を駆使し、伝え合う力としての「生きる力」の定着を図ることが、その目標であると考えられる。

「生きる力」の育成のためにも、「日本の伝統と文化の尊重」が強調されているのは周知の通りである。その原点ともいえるのは「文字」を正しく書くことであり、この書写の基礎・基本を身に付けさせることが大切なのは、言うまでもない。そして、文字に対する関心を深め、文字感覚を養い、文字文化を継承していく上でも重要であると考えられる。

新学習指導要領では、国語科の目標が以下のように示されている。

「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようになる。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。」

新学習指導要領では、これからの国語科が目指すものとして、「伝え合う力」がいっそう重視されている。書写の学習は、他教科との関連が不可欠である。すべての教科は「書く」活動に支えられており、その根幹を担っているのが国語科「書写」になる。日々の書く活動は、自身の思考を深めたり、記録したりする以外にも相手に伝えるという役割を担っている。

国語科の言語活動や、学校生活、日常生活に生きる書写として、さまざまな場面において相手意識・目的意識をもって書くことで「伝え合う力」を育成していきたい。

伝える相手を明確にしたり、教具の選定を工夫したり、他教科との連携を図ったりすることで、書くことを純粋に楽しむ気持ちをもてるようにしたい。また、生涯を通して書くことを楽しみ、豊かなコミュニケーションを育むために、「文字」を身近に感じられるようにしたい。

これらから、相手意識・目的意識をもった活動、身近に使える教具の使用による伝え合う力の向上が、「生きる力」を育むことにつながると考え、本主題を設定した。

## II 研究仮説

(1) 伝える相手を明確にしたり，教具の選定を工夫したりすれば，書くことを楽しみ，進んで書く意欲をもち，取り組むことができるだろう。（関心・意欲）

＜手だて＞国語科・総合的な学習の時間と関連して，日常的に簡単に扱える教具「筆ペン」を使用して作品を作成する。→小学校での実践

(2) 他教科との連携を図り，書写の学習を活用する場面を設けることで，書写への意識が高まり，学習したことを日常での文字を書く活動にも生かすことができるだろう。

（書写の日常化）

＜手だて＞他教科の学習活動と連携して，書写の学習を設定する。→中学校での実践

## III 研究の実際

### 実践1（小学校）

#### 第3学年 国語科書写指導案

指導者 佐倉市立白銀小学校 関 亮子

1 単元名 文字の大きさと行の中心 「俳句を書く」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は，新国語科学習指導要領の目標〔知識及び技能〕(3)【我が国の言語文化に関する事項】エ 書写に関する事項「(ア)文字の組立て方を理解し，形を整えて書くこと。

(イ)漢字や仮名の大きさ，配列に注意して書くこと。(ウ)毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め，筆圧などに注意して書くこと。」を受けて設定したものである。

本単元では，漢字や仮名の大きさや，行の中心に気をつけて，配列を整えて書くことができるように指導するとともに，意欲的に書く気持ちを育てていきたい。また，相手意識をもって丁寧に書くことを意識づけたい。

日本で長い間親しまれてきた俳句を学習したあとに，自分で俳句を作り，その俳句を筆ペンを使用して作品として仕上げる活動を行う。新学習指導要領では，第1・2学年の学習に水書筆等を使用して学習することが明記された。第3学年で筆ペンを使って学習することは，第1・2学年での硬筆学習から第3学年の毛筆学習への移行という意味で，効果的ではないかと考える。

(2) 児童の実態 (4月 男子11名, 女子20名 合計31名)

1. 毛筆の学習が始まることは楽しみですか。  
とても 29名 まあまあ 2名 あまり 0名 全然 0名
2. 書写の学習をして「役に立った」「よかった」と思うのは、どんな時ですか。
  - ・文字の形がよくなったとき。(28名 93%)
  - ・ノートにうまく書くことができたとき。(27名 87%)
  - ・ちょうどよい大きさに文字を書くことができたとき。(25名 80%)
3. 文字を書くのがむずかしいと思うときはどんなときですか。
  - ・行がまっすぐになるように書くとき。(21名 67%)
  - ・文字の大きさをそろえて書くとき。(18名 58%)
  - ・書写の作品を書くとき。(10名 32%)
  - ・掲示物を書くとき。(8名 25%)
4. 文字を書いて、人に喜んでもらったり、自分が嬉しかったりした経験はありますか。  
はい 31名 いいえ 0名
  - ・休んだお友達に連絡カードを書いてあげたら次の日に「ありがとう」と言われた。
  - ・妹に文字を書いてあげたら喜んでいました。
  - ・友達からお手紙をもらってうれしかった。
  - ・毎年の年賀状が楽しみ。
  - ・おじいちゃんやおばあちゃんにはがきを書いたら喜んでくれた。
  - ・去年の生活科で栄養士の先生にクラスのみんなでメッセージカードを書いたら喜んでくれた。
  - ・転校してしまったHちゃんにみんなでお手紙を書いたら喜んでくれた。
  - ・先生にお手紙をあげたら喜んでくれた。

(3) 指導観

実態調査から、児童は今年から始まる毛筆の学習をととても楽しみにしていることがわかる。第2学年までの書写の学習が日常に生かされていると考えている児童が多く、特に「文字の形がよくなったとき」「ノートにうまく書けたとき」に、約9割の児童が書写の学習が「役に立った」「よかった」と感じている。

文字を書いて人に喜んでもらったり、自分が嬉しかったりする経験をした児童は全員で、その経験を具体的に答えた児童が多かった。

新学習指導要領では、第1学年及び第2学年で水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れるなど、早い段階から硬筆書写の能力を高めるための関連的な工夫をすることが示されている。水書用筆等を使用する指導は、第3学年から始まる毛筆を使用する書写の指導への移行を円滑にすることにもつながる。第2学年までの水書用筆の使用を受けて、筆ペンを取り入れることで硬筆と毛筆の関連的な指導ができると考えた。

実態調査から「行がまっすぐになるように書く」ことや「文字の大きさをそろえて書く」ことが難しいと感じている児童が半数以上いる。本時では、配置・文字の大きさ・文字の中心に気を付けて書けるように指導をしたい。その際、文字の大きさや文字の中心について話し合わせ、子どもたちでポイントに気づくように支援していきたい。

また、国語科で学習したことをもとに筆ペンを使用して俳句を短冊に書き、校内ラウン

ジに掲示し、友達・保護者・地域の方に見てもらふことを伝える。国語科の学習のゴールに、書写の学習を生かした活動を取り入れることで、毛筆のよさを味わわせるとともに、書写の日常化をはかりたい。

白銀小学校は地域コミュニティースクールとして開校15年目を迎える。地域の方が毎日登下校の見守りや校内パトロール・校内の環境整備・ビオトープの維持管理・里山の整備などを行ってくれているので、自分たちの身近に感じられる存在となっている。その中で、特に3学年の実践では、普段お世話になっている地域環境ボランティアの方に「ありがとう俳句」を作成し、プレゼントすることを伝え、相手意識・目的意識をもって活動していきたい。

また、文字によって、気持ちを伝え合うことに喜びを感じ、学習したことを日常での文字を書く活動にも生かせるように指導していきたい。

### 3 単元の目標

- ・筆ペンのよさを生かして意欲的に書こうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・漢字や仮名の大きさや行の中心を理解して、気をつけて書くことができる。(知識・技能)
- ・書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていこうとする意欲をもつことができる。(書写の日常化)

### 4 指導計画(3時間扱い)

学 習 活 動	時配
○俳句の特徴を知り、俳句を作る。	1 (国語科1)
○俳句を筆ペンを使って書く。	1(本時①)
○環境ボランティア交流会で自分の俳句を発表し、地域の方・保護者の方に「ありがとう俳句」をプレゼントする。	1 (本時②)

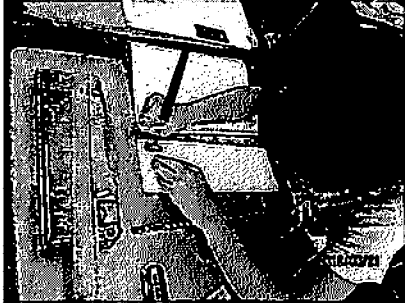

### 5 本時①の指導

#### (1) 目標

- ・漢字や仮名の大きさや行の中心を理解して、気をつけて書くことができる。(知識・技能)

#### (2) 展開(2/3)

時配	学習活動と内容	指導・支援 ○評価	資料
3	1. 本時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を確認する。</li> <li>・自分の考えた俳句を短冊に書くことを伝える。</li> <li>・今回作成した俳句・または次回作成した俳句を、地域の方へプレゼントすることを伝える。</li> </ul>	
	筆ペンを使ってバランスよく俳句を書こう。		
7	2. 短冊への書き方を理解する。 ・俳句の文字数を考え、配置・バランスを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書き方の例を提示後、俳句をどのように短冊に配置するかを考える時間をとる。</li> <li>・近くの席の児童と話し合わせる。</li> </ul>	見本例 (黒板掲示)

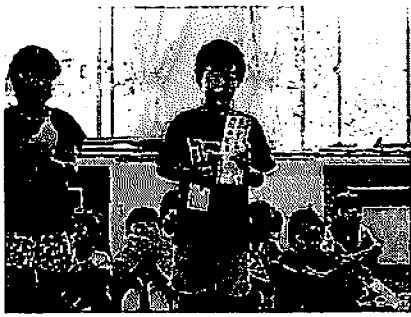
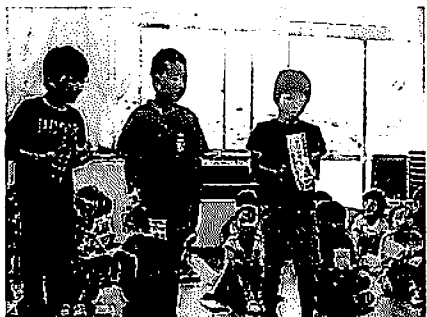



10	<p>3. 短冊へ鉛筆で下書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書く際に気をつけることを確認する。</li> <li>・鉛筆で書いたものを見直し、必要があれば書き直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配置・文字の大きさ・文字の中心に気を付けて書くことを伝える。</li> <li>・気持ちが伝わるように、ていねいに書くことを確認する。</li> </ul>	短冊
10	<p>4. 筆ペンで書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書く際に気をつけることを確認する。</li> <li>・試し書きをしてから短冊に書く。</li> <li>・書き終わったら、自分の短冊を見て、配置・バランス・文字の中心に気を付けて書けたかふり返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導をしながら、筆ペンを使用する際に注意することを確認する。(強く押すと墨汁が出てくることなど)</li> </ul>	練習用紙 短冊
			
12	<p>5. 鑑賞会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの作品のよいところについて意見を交換する。</li> <li>・自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの作品のよいところはどこか、配置・中心を意識して意見を交換できるように助言する。</li> </ul>	
		<p>○バランスよく俳句を書くことができたか。</p> <p>(知識・技能/作品・ふり返り)</p>	
3	<p>6. 感想発表をし、次回のめあてを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回作成した俳句・または次回作成した俳句を、地域の方へプレゼントすることを伝える。</li> </ul>	

## 6 本時②の指導

### (1) 目標

- ・書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていこうとする意欲をもつことができる。
- (書写の日常化)

(2) 展開 (3/3)

時配	学習活動と内容	指導・支援 ○評価	資料
5	1. 本時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方へ向けて発表し、俳句をプレゼントするという目的意識をもたせる。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">俳句を書いた短冊を地域の方へプレゼントしよう。</div>			
5	2. 俳句に込めた思いが伝わるようなプレゼントの仕方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような思いで「ありがとう俳句」を作ったのか、思いを説明できるように声かけをする。必要であればノートにまとめられるようにする。</li> </ul>	ありがとう俳句
15	3. 地域ボランティア交流会で自分の作品について全体の前で発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を書く際に気をつけたこと、どのような思いでこの俳句を作ったかを発表する。</li> </ul>		ありがとう俳句
			
15	4. 地域の方へプレゼントする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句にこめた思い・日頃からの感謝などを伝える。</li> </ul>	○俳句の発表会を通し、言葉や文字、表現について感想をもつことができる。(書写の日常化/発表会) <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方からも感想を言って頂けるように伝える。</li> </ul>	ありがとう俳句
			
			

5 5. 学習のまとめをする。



- ・相手のことを思い、丁寧に文字を書くことの意味を確認する。
- ・それぞれの文字のよさを認め合う。
- ・これからもいろいろな場面で書写での学習を生かしていこうとする意欲をもたせる。

【紹介：4～6学年での筆ペン活用の実践】

※3～6学年でも同様に自分の俳句や短歌を短冊に筆ペンで書くという実践を行った。

【事後アンケート】(第3学年 男子11名, 女子20名)

1. 筆ペンを使って楽しく学習ができましたか。

はい 31名 いいえ 0名

2. 筆ペンを使って大変だったことは何ですか。

- ・字の太さ、はらうところ、止めるところ。
- ・画数が多い漢字を書くこと。
- ・筆ペンを使ったあとにきちんと乾かさないと作品がよごれてしまうこと。
- ・筆ペンの持ち方。
- ・文字が太くなってしまうこと。

3. また筆ペンを使って文字やメッセージを書きたいですか。

はい31名 いいえ0名

4. 筆ペンを使って俳句を書いたり、地域の方に「ありがとう俳句」をプレゼントしたりした学習の感想を書きましょう。

- ・書写の学習で、行の中心や漢字の大きさに気をつけて書くことがわかった。
- ・筆ペンを使って初めて書いたけれど、とても楽しかったです。これからもたくさん使ってみたいです。
- ・筆ペンを使って書いたら、自分の字がとても大人っぽく見えてかっこよかった。
- ・俳句を筆ペンできれいに書けてよかった。それをプレゼントできてよかった。
- ・俳句を地域のみなさんが喜んでくれてよかったです。
- ・地域の方の笑顔が見られてよかったです。
- ・いっぱい話して交流できたことがよかった。
- ・筆ペンを使って書いた俳句を地域の方が「すごいね!」と言ってくれたことがうれしかったです。
- ・ありがとう俳句を渡したらとても喜んでくれてうれしかったです。
- ・地域の方に「字が上手だね〜」「よく書けているね〜」と言われたことがうれしかった。
- ・地域の方にほめられてうれしかったです。



- 1 単元名 身のまわりの多彩な文字に関心を持ち、効果的に文字を書こう  
三年間の学習の成果を生かそう「自分を励ます言葉の色紙づくり」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、新国語科学習指導要領の目標及び「[知識・技能] (3) 【我が国の言語文化に関する事項】エ 書写に関する事項「(ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。」を受けて設定したものである。

本単元は、9年間の書写学習で学んだ内容を踏まえたまとめの学習である。文字の大きさ、配列、筆圧、書体の選択など様々な学習内容を、より効果的に活かしたい。また、身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、文字を手書きすることの意義に気づかせたい。そして、主体的な文字の使い手になるきっかけをつくり、高等学校芸術科書道及び、実社会・実生活での文字を書くことへと繋げていきたい。

(2) 生徒の実態

臼井南中学校は全体的に学習意欲が高く、学校外で書道を習っている生徒も多い。また、書写学習に加え、国語科の取り組みとして日頃から俳句を筆ペンで書き掲示する活動を行っている。

《書写に関するアンケート結果》

書写に関するアンケートを第3学年111名に実施した。(4月)結果は以下の通りである。

①筆で文字を書くことは好きですか。

好き：11名 やや好き：27名 あまり好きではない：55名 好きではない：18名

好き・やや好きの理由

- ・普段とは違う字が書ける ・日本の伝統文化を感じるから ・かっこいい字が書けるから
- ・シャーペンやボールペンとは違う書き心地だから ・かすれなど字に味が出るから

あまり好きではない・好きではない理由

- ・手間がかかる、汚れる ・普段あまり使わないから ・下手だから ・難しいから
- ・慣れていないので書きにくい ・苦手だから

②筆より筆ペンのほうが好きですか。

好き：45名 やや好き：41名 あまり好きではない：19名 好きではない：6名

③筆ペンで文字を書くことに慣れたいですか。

そう思う：87名 そう思わない：24名

アンケートの結果から、筆で文字を書くことに対して苦手意識をもった生徒がやや多いことがわかった。また、書写に関心のある生徒は書写への学習意欲は高く、筆ペンへの興味も高いが、書写学習に消極的な生徒は、学習意欲が低いことがわかる。生徒によって書写学習への意識の格差が大きいように感じる。

### (3) 指導観

実態調査の結果から、生徒たちにとって今必要なのは、日頃の書写学習を日常化させることであると考えた。そこで今回は、美術科と連携し、カラー筆ペンで文字を書く活動を取り入れた。第3学年では、これから進路決定を控える自分に向けた「自分を励ます言葉」を選び、その言葉に合う背景を決め、文字をカラー筆ペンで効果的に書く学習を行う。また、黒の筆ペンよりも、生徒の興味をさらに引き出せると考え、筆記具にはカラー筆ペンを使用する。身のまわりから自分で言葉を選び、どのように表現したいのかを自ら考え、筆ペンの特長を生かした手書き文字を楽しむことで、日常生活に書写学習が生かせることを実感させたい。

### 3 単元の見通し (現学習指導要領より)

#### 国語科書写の見通し

- ・3年間の学習を生かして、楷書や行書の筆使いなどの習得に自己の課題をもって取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)
- ・楷書や行書の筆使いや字形、筆記用具、用紙について考えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・楷書や行書の筆使いや字形に気をつけて書くことができる。 (技能)

#### 美術科の見通し

- ・自分の思いを大切に、主体的に制作に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・画面構成、色彩等を考え、表現に適した描画材を選ぶことができる。 (発想や構想の能力)
- ・材料、用具の特性を活かし、技法を工夫して丁寧で美しい作品を仕上げることができる。 (創造的な技能)
- ・自他の作品の良さや、作者の意図、表現の工夫を味わうことができる。 (鑑賞の能力)

### 4 指導計画 (5時間扱い)

学習過程	字配	学習内容と学習活動	評価基準 (評価の観点・評価方法)
第一次	1 美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を励ます色紙づくり」を行うことを知る。</li> <li>・図書室やPCを活用して、自分を励ます言葉を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心に響き、元気がでる言葉を探し、決定しようとしている。 (関心・意欲・態度/観察)</li> </ul>
第二次	1 美術 1 書写	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉に合う背景を考える。</li> <li>・色彩の計画を立て、色紙に下書きをする。</li> <li>・言葉の内容に合わせた文字の大きさ、配列、筆圧、書体などを考える。</li> <li>・楷書・行書の字形などに注意しながら練習用紙に練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面構成、色彩、文字の配置などを考えることができる。 (発想・構想の能力/下書き)</li> <li>・3年間の学習を生かして、楷書や行書の筆使いなどの習得に自己の課題をもって取り組むことができる。 (関・意・態/観察・用紙)</li> <li>・楷書や行書の筆使いや字形、筆記用具、用紙について考えることができる。 (思考・判断・表現/観察・用紙)</li> </ul>

第三次	1 書写 美術  本時 (4/5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターカラー，水彩絵の具，色鉛筆で背景をぬる。</li> <li>・カラー筆ペンで文字を書く。</li> <li>・色紙を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の特性を生かし，技法を工夫して作品を仕上げることができる。 (創造的な技能/作品)</li> <li>・楷書や行書の筆使いや字形に気をつけて書くことができる。(技能/作品)</li> </ul>
第四次	1 美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に込めた思いを伝えあい，相互の作品を鑑賞し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の作品の良さや，作者の意図，表現の工夫を味わうことができる。 (鑑賞の能力/プリント)</li> </ul>

## 5 本時の指導

### (1) 目標

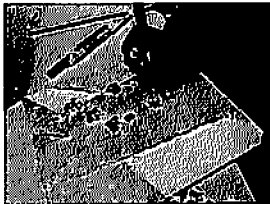
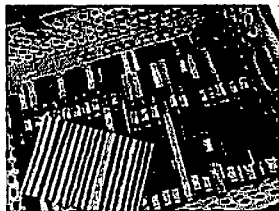
#### 国語科書写の目標


- ・楷書や行書の筆使いや字形に気をつけて書くことができる。(技能)

#### 美術科の目標

- ・材料，用具の特性を活かし，技法を工夫して丁寧で美しい作品を仕上げることができる。  
(創造的な技能)

### (2) 展開 (4/5) T1: 美術科教諭 T2: 国語科教諭

時配	学習活動と学習内容	指導と支援 ○評価	資料
2	1. 前時まで考えた言葉に合わせた色紙の背景や，文字の書き方の下書きを見る。 2. 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             3年間の学習を生かして、自分を励ます言葉を書こう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなもの考えたか思い出そうにする。 T1</li> </ul>	下書き用紙
20  15	3. 色彩の計画をもとに，ポスターカラー，水彩絵の具，色鉛筆で背景をぬる。  4. 練習用紙をもとに，背景との調和・文字の大きさ・書体・配列・筆圧などに注意しながら，カラー筆ペンで文字を書く。  <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○用具の特性を活かし，技法を工夫している。 (創造的な技能・観察・作品) T1</li> <li>・練習用紙に再度練習してから色紙に書くように指導する。T2</li> <li>・筆ペンの性質を活かすように伝える。T2</li> <li>○楷書や行書の筆使いや字形に気をつけて書くことができる。 T2 (技能/作品)</li> <li>○楷書や行書の筆使い，字形を理解している。 T2 (知識・理解/作品)</li> </ul>	絵の具 ポスターカラー 色鉛筆  練習用紙 カラー筆ペン

10	<p>5. 作品に込めた思いや工夫したところを書く。</p> <p>6. 作品を提出する。</p>	<p>・背景や文字の書き方で特に工夫した点を書くようにする。</p>	プリント
			
3	<p>7. 次回は、作品に込めた思いを伝えあい、相互の作品を鑑賞し合うことを伝える。</p>		

【カラー筆ペンを使用した生徒の感想】

- ・楽しかったし、使いやすいなと思った。
- ・黒以外のカラーで書けるのが楽しい。筆に似た字が書けて良い。
- ・書く時、少し緊張したけれど、カッコいい字が書けてうきうきした気分になった。
- ・自分の筆ペンがほしいと思った。
- ・新聞が色鉛筆では出せない印象になり、鮮やかになった。
- ・大人になったら筆ペンが使えたらカッコいいので、上手に書けるようになりたいと思った。
- ・たまには筆ペンで文字を書くのもいいなと思った。
- ・特に片付けがいらないので、気軽に使うことができた。
- ・コツを掴めば、すごくきれいに書けた。
- ・ボールペンなどとは違い、文字の書き始めの止めやはらいなどが出て、良いと思った。
- ・筆に比べると、力強さに欠けるので、筆でも書いてみたくなった。
- ・字が上手な人のような文字で書くことができた。
- ・間違えても消せないのが、大変だった。
- ・筆のような感覚で、力加減が難しかった。

## IV 成果と課題

### 仮説1について

- 相手意識・目的意識をもつことで、自己の目標が定まり、書くことに対して意欲的に取り組む姿が見られた。相手に自分の作品をプレゼントすることにより、よりよい文字を書きたいという意欲が高まった。
- 普段は書くことが目的化してしまい、書いたものの出来によって意欲が低下してしまう児童もいた。しかし、相手意識をもって書き、自分の作品を大勢の他者が評価してくれることにより、文字を書く楽しさがわかり、書く意欲が高まった。また、理解したことをどう使っていくか考え、表現力が高まっていく児童も見られた。
- 他教科と関連を図ること、日常的に無理なく使用できる教具を使うことで児童の負担感・嫌悪感がなくなり、楽しみながら学習できることがわかった。
- 筆ペンを使用したことにより、筆の扱いに慣れ、毛筆学習での名前が上手になった。
- 書写の時間を楽しみにする児童が増え、書写に対する意識づけをすることができた。
- 第4～6学年でも同じ実践をし、どの学年でもよりよい文字を書きたいという意欲が高まったと感じる。学校全体を通しての実践をすることで、書写指導に対する教員の意識も高まり、お互いに協力し合いながら授業をすることができた。
- ▲ 表現力を高めるためには、児童にさらなる知識や技能が必要なことがわかった。筆使いや字形など、書写としての技能も身につけていかなければならない。
- ▲ 日頃の学習の中で、書写学習を生かす場面をどのように取り入れていくか、学習活動を考えていく必要がある。また、時数を確保していくために、内容を精選していく必要がある。

### 仮説2について

- 国語に限らず、他教科と連携し、様々な活動の中に書写学習を取り入れることによって、生徒の書写への関心が高まり、書くことへの意欲に繋がった。
- 生徒たちは、筆記用具の特徴を生かしながら書くことを学び、背景との調和や書体の選択、字形などに気をつけながら自分たちで考えて取り組むことができた。
- 普段あまり使わないカラー筆ペンを使用し、書く楽しさを味わうことで、苦手意識・抵抗感を軽減させることができた。
- ▲ 作品の活用方法、掲示方法なども踏まえて、用具を選択する力をつける必要がある。
- ▲ 書写の日常化を図っていくために、教室の掲示物に手書き文字を取り入れたり、日頃からいつでも誰でも用具の選択ができる環境を整えたりして、働きかけていきたい。

# 資料編

## 実践3（小学校）

### 3 学年 国語科書写・総合的な学習の時間指導案

指導者 佐倉市立白銀小学校 関 亮子

#### 1. 単元名 書いてつたえよう「ちとせ小町のみなさんへ」

#### 2. 単元について

##### (1) 単元観

本単元は、新国語科学習指導要領の目標〔知識及び技能〕(3)【我が国の言語文化に関する事項】エ 書写に関する事項「(ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。

(イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。(ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。」を受けて設定したものである。

本校では、3 学年は総合的な学習の時間に地域の高齢者福祉施設「ちとせ小町」において、施設を訪問し、交流会を行っている。ちとせ小町では、3 学年の交流以外にも合唱部のクリスマスコンサートやちとせ小町主催の秋祭りでの交流などが行われている。児童たちは、ちとせ小町のお年寄りとの交流を楽しみにし、またちとせ小町の職員の方・お年寄りは児童を喜んで受け入れてくださっている。学校と地域施設が児童とお年寄りという立場で盛んに交流できている現実があり、このことは双方にプラスの働きを与えている。

本単元では、3 学年になって初めての総合的な学習の時間で、ちとせ小町のお年寄りに交流会で自分たちの気持ちを伝え、喜んでもらうためにはどうしたらよいかを話し合い、活動を考えていく。

その中で、自分たちの気持ちを伝えるという点で筆ペンを使用し、ちとせ小町の高齢者の方にメッセージカードや俳句を作成するという活動を取り入れる。このことにより、自己の言葉や文字をよりよく書き、相手意識をもって伝える力を育成したい。「文字」をもって伝えること、その文字をどのように書いたら相手によりよく伝わるかを考える時間を持ち、児童の思いが伝わるようにしたい。

日常生活の中で、全教科を通して行っている「文字を書く」活動であるが、ちとせ小町のお年寄りに自分たちの気持ちをよりよく伝えるために「書く」という目標を持ち、活動させたい。また、文字をよりよく書こうとする態度を育て、文字の「伝達」「つなぐ」「文字によって交流できる」というはたらきを体感させたい。そのために、自分の思いをしっかりと考え、伝えられる時間をしっかりとりたい。また、ちとせ小町のお年寄りと鑑賞する時間を長めにとり、「自分が書いた文字が相手に思いを伝えている」と感じられる時間を確保したい。

児童たちがこの地域社会に関わっていくことは、とても意義深いものである。児童たち自身も高齢者の方々と接することで、お年寄りに優しくする気持ちをもつとともに、自分にはかけがえのない命をもった存在であること、皆で支え合って生きていること等にも気づかせたい。

#### 3. 単元の目標

- ・相手に向けて、学習経験や生活経験を生かし、相手のことを考え、自分が伝えたい言葉や文字を考えることができる。 (関心・意欲・態度)
- ・鑑賞会を通し、言葉や表現について感想をもつことができる。 (日常化)



学 習 活 動	時配
○筆記用具（筆ペン）の特徴を知り，文字を練習することができる。	1
○施設を訪問する前に高齢者のことを考え，メッセージカードを作成する。	1
○ちとせ小町に交流に行く。（折り紙・メッセージカード交流）	2
○施設を訪問し，高齢者の方へ向けたメッセージカード・俳句づくりを行い，仕上がったメッセージカード・俳句の鑑賞会を行う。	1 (本時)
○ちとせ小町訪問をふり返り，気づいたことや感想を書く。	1

5. 本時の指導

(1) 目標

- ・学習経験や生活経験を生かし，相手のことを考え，自分が伝えたい言葉や文字を考えることができる。 (関心・意欲・態度)
- ・鑑賞会を通し，言葉や表現について感想をもつことができる。 (日常化)

(2) 展開 (5/6)

時配	学習活動と内容	指導・支援 ○評価	資料
5	1. 本時の学習内容を知る。 2. グループごとに自己紹介・はじめの会を行う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ちとせ小町のお年寄りに自分の思いを筆ペンで書いて伝え、交流しよう。</div>	・前時の学習から本時の内容を確認する。	グループごとの進行表
25	3. メッセージカードづくり・俳句づくりを行う。 (1) 筆ペンを使って文字を書く。 (2) 絵を描く。色ぬりをする。  	・ちとせ小町のお年寄りと会話をしながら進めることを確認する。 ・同じグループの友達と話しながら進める。 ○筆ペンを使用し，相手に向けてていねいに書くことができたか。 (関心・意欲・態度/活動・作品)	作品用紙 筆ペン 色鉛筆 サインペン
10	4. 鑑賞会・作品プレゼントをする。 (1) 自分がどのような思いでつくったかを発表する。 (2) ちとせ小町のお年寄りにプレゼントする。 (3) ちとせ小町のお年寄りから感想をいただく。  	・どのような気持ちで作成したのか言葉にして伝えられるように助言する。 ○鑑賞会・作品プレゼントを通して，言葉や表現について感想をもつことができたか。(日常化/発表) ・児童の書いた字や言葉から，筆ペンを使用して書いた手書き文字のよさや字や言葉を通して交流することのよさを確認する。	



5	<p>5. グループごとに終わりの会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の交流会全体を振り返って1人ずつ感想を発表する。</li> <li>・終わりの言葉を言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちとせ小町のお年寄りに作品をプレゼントする。</li> <li>・日常生活の中でも、手書き文字のよさを生かし、積極的に取り入れるようにしていくことを伝える。</li> </ul>
---	---	---

○単元の学習後も、継続してちとせ小町のお年寄りに向けて手紙を書き、放課後に手紙を届ける児童もいた。

実践4 (中学校)【略案】

**国語の授業×書写**

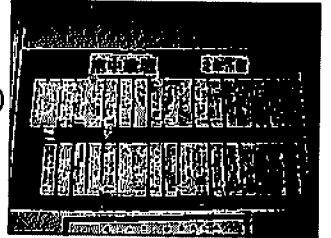
第1・2・3学年 国語科書写指導案

「修学旅行の思い出を俳句・短歌で詠み、筆ペンで短冊を書こう。」

指導者 佐倉市立臼井南中学校 佐々木育美

(1) 本時の目標

- ・行書と仮名の調和と配列を理解して書くことができる。(知識・技能)



(2) 展開の流れ (1時間扱い) (第3学年の例)

時配 (分)	学習活動と学習内容	指導と支援 ○評価	備考
導入 5	1. 学習の目標と流れを理解する。  修学旅行の思い出を俳句・短歌で詠み、筆ペンで短冊を書こう。  作るときのポイントを押さえる。 季語, 切れ字の使い方, 省略, 字余り, 字足らずなど。	・学習目標を板書し, 1時間の見通しを持たせる。  ・例を挙げながら, 今まで学習した表現方法を復習させる。	プリント
展開 35	2. 修学旅行を振り返り, 思いつく語句をたくさん書く。  3. 書き出した語句の中で, 特に思い出深い3つの語句を選び, 丸をつける。  4. 3つの語句から話題を広げる。 (例) 清水寺→人が多い, 外国人 5. 俳句, 短歌を作成する。  6. 短冊に筆ペンで俳句を書き, 掲示する。	・時間を決めて, ストップウォッチで測り, いくつ書けたかをゲーム感覚で競わせる。 ・机間指導をし, 手が止まってしまっている生徒には, 3日間の行程など, 振り返りをさせるなど助言する。 ・情景をより詳しく書くように指導する。 ・同じ内容でも, 語句を入れ替えたり, 違う言葉を使ったりして推敲させる。 ・バランスや大きさを考え, 読みやすく書くように指導する。  ○行書と仮名の調和と配列を理解して書くことができる。 (知識・技能/作品)	プリント ストップウォッチ       筆ペン 短冊
まとめ 10	7. 学級の仲間の短歌, 俳句を読み合い, 投票して金賞を決める。	・季語や表現方法に注目して選ぶように指導する。	プリント

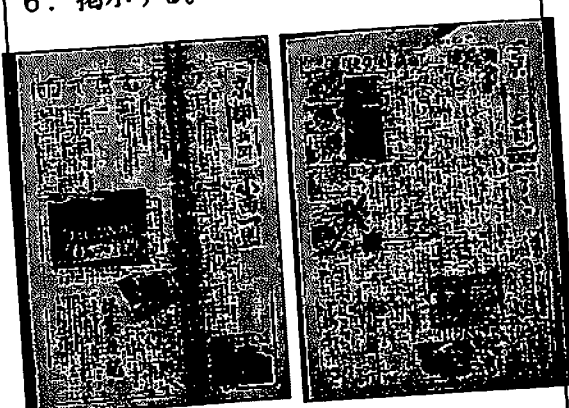
**総合的な学習の時間×書写**

第3学年 国語科書写・総合的な学習の時間指導案  
「修学旅行の個人新聞をつくらう」

指導者 佐倉市立臼井南中学校 佐々木育美

- (1) 本時の目標
- ・見る人の目を引くような新聞をつくるために、記事の配置や見出しの書き方を工夫し、書くことができる。(技能)

(2) 展開の流れ (3時間扱い)

時配 (分)	学習活動と学習内容	指導と支援 ○評価	備考
導入 25	1. 単元の目標を知る。  修学旅行の個人新聞をつくらう。		
展開 60 60	2. 新聞の構成を考える。 3. 見出しのバランス, 内容, 写真, コマ漫画, クイズなど書く内容を考える。  4. 下書きをする。 ・鉛筆で下書きをする。 5. 本書きする。 ・ボールペンで清書する。 ・新聞名, 見出しはカラー筆ペンを使用する。 ・見る人の目を引くように効果的に書く。	・例を提示して, 構成の参考にさせる。  ・机間指導して助言する。 ・新聞全体と文字の調和を考えながら, 文字の大きさ, 書体, 色を考えるように指導する。	写真 構成メモ  台紙 カラー筆ペン ボールペン 色鉛筆
まとめ 5	6. 掲示する。  	○見る人の目を引くような新聞を完成させることができたか。 (技能/新聞)	掲示フォルダー

## 小学校国語・書写 学習指導要領 一改訂の概要

### ○年間の授業時数

①現行時数からの変更はない（学校教育法施行規則）。

第1学年	306時間
第2学年	315時間
第3学年	245時間
第4学年	245時間
第5学年	175時間
第6学年	175時間

（書写を含む）

### ○育成すべき資質・能力に基づく枠組みの採用

①教科の「目標」が、上位目標と、資質・能力の三つの柱に対応した下位目標(1)(2)(3)とで構成されている。

- (1) 知識及び技能
- (2) 思考力、判断力、表現力等
- (3) 学びに向かう力、人間性等

低・中・高学年の「目標」も、この三つの柱に対応するかたちで示されている。

\*上位目標に国語科の教科特性を端的に示す語句として「言葉による見方・考え方」が示された。

\*「言語活動」が目標へ格上げされた。

②「内容」については、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」のそれぞれについて示す形式とされている。

### ○教科構造（3つの資質・能力）と内容

#### ①知識及び技能

\*現行「伝統的な言語文化と国語の特質」のほとんどが入っている（語句・文法・漢字・書写）。

\*「伝統的な言語文化」が「言語文化」へ。

\*現行「読むこと」の「音読」や「読書」が移動。

\*新規に「情報の扱い」が入る（小・中とも「思考法」を扱う）。

#### ②思考力、判断力、表現力等

\*現行「A話すこと聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」が領域名のままリニューアル。

\*現行「言語活動」が分盤をそのままにリニューアル。

その際、「主体的・対話的で深い学び（旧

アクティブ・ラーニング）」の視点は、この「言語活動」の質的な向上をもたらすものという位置づけにある。

③学びに向かう力、人間性等

\*各教科では直接取り上げない

### ○漢字配当

①以下の漢字が小学校4年生に移る。

茨	媛	岡	賀 <sup>5</sup>	潟	岐
熊	群 <sup>5</sup>	香	佐	埼	崎
滋	鹿	城 <sup>6</sup>	縄	井	沖
徳 <sup>5</sup>	栃	奈	梨	阪	阜
富 <sup>6</sup>					

（計25字）

※漢字横の数字は、移る前の学年を示す。数字のない漢字は常用漢字から移動したもの。

### ○内容の取扱い

①「話すこと・聞くこと」「書くこと」の時数を引き続き明示。現行時数からの変更はない。

\*「話すこと・聞くこと」

第1・2学年 年間35時間程度

第3・4学年 年間30時間程度

第5・6学年 年間25時間程度

\*「書くこと」

第1・2学年 年間100時間程度

第3・4学年 年間85時間程度

第5・6学年 年間55時間程度

②書写の時数は、現行時数からの変更はない。

硬筆を使用する書写の指導は各学年で行う。

毛筆を使用する書写の指導は、第3学年以上で行い、年間30時間程度とする。

「指導計画の作成と内容の取扱い」に、第1・2学年の「点画の書き方」の指導については、「適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること。」と追加された。

③幼稚園教育要領等や生活科との関連、スタート・カリキュラムに関する項目が入る。

④外国語科等との関連が入る。

⑤ICT（コンピューターや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設ける）が入る。

⑥「説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げる」ことが、「C読むこと」の教材選定に求められる。これは、PISA調査の結果が反映されていると考えられる。

2017年4月 教育出版株式会社 編集局



教科書・教材

デジタル教材

一般書籍

全国研究会情報

会社案内

トップ > 小学校書写 > 新しい学習指導要領の方向性

小学校 国語

小学校 書写

教材別資料一覧

年間指導計画・評価計画資料

書写の基礎講座

書写の疑問、すべて解決！

リンク集

編者の想いと特色

単元系統一覧表など

編集委員

私たちは教科書をどう考え、どう編  
纂したか

拡大教科書

小学校 社会

小学校 生活

小学校 道徳

小学校 英語

## 新しい学習指導要領の方向性

### 新しい学習指導要領を読み解く

山梨大学教授 宮澤正明

今次の学習指導要領の改訂では、各教科において育成を目指す資質・能力として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱を挙げています。国語科も、これにならって構成されています。

現行の小・中学校学習指導要領国語科における「書写」は、[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]に位置づけられていますが、今次の改訂で「書写」は、[知識及び技能]の「(3)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。」に位置づけられました。書写が「知識・技能」に位置づけられたことで、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった言語活動を支える基礎的役割が、より明確になったといえます。

次に、小・中学校国語科書写の新しい内容について考えてみます。

#### 1. 小学校書写について

##### ■ 低学年の変更のポイント

現行では、ア・イの2項目ですが、新学習指導要領は、(ア)～(ウ)の3項目になりました。

##### 【第1学年及び第2学年】

- (ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。
- (イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。
- (ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。

注目すべきは、(イ)に「点画の書き方」が新たに加わったことです。文字を構成する要素を「点画」といいますが、点画には始筆、送筆(折れ、反り、曲がりなど)、終筆(止め、はね、払い)があり、文字の形(概形)とともに点画を意識して確実に書くように指導するということです。点画の書き方、特に終筆の「はね、払い」への意識を高めるためには、硬筆ではなく弾力のある筆記具を用いることが効果的です。このことに関して「指導計画の作成と内容の取扱い」のカ(エ)で、「第1学年及び第2学年の(3)のウの(イ)の指導については、適切に選筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること。」とあります。これは、弾力のある筆記具による効果を期待したものといえるでしょう。第3学年から始まる毛筆学習を円滑に進める上でも、今次の改訂における重要なポイントになります。

### ■ 中学年の変更のポイント

現行の「ウ点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。」が、改訂では「(ウ)毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。」になりました。点画の書き方、特に終筆の「はね、払い」については、毛筆によって文字が書き進められてきたことを理解するとともに、毛筆特有の筆圧などを感得することで、より正しく整った字形を書くことが期待されます。なお、毛筆学習は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導することは、継続して配慮されており、毛筆のための毛筆学習にならないよう注意する必要があります。

#### [第3学年及び第4学年]

- (ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。
- (イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。
- (ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。

### ■ 高学年の変更のポイント

高学年の内容は変更がありません。高学年では、一文字の書き方から、文・文章といった文字群における文字の大きさや配列に関する内容になります。(ア)の「書く速さを意識して書く」の文言は、場面に応じた書く速度を意識することであり、小学校の段階ではスピードを高めさせる学習ではありません。しかし、中学校で学習する速く書くための行書学習への橋渡しとして、「いわゆる許容の書き方」についての知識・理解を図る工夫は必要になるでしょう。

#### [第5学年及び第6学年]

- (ア) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。
- (イ) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。
- (ウ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

なお、学年別漢字配当表には、現行の1006字から20字増えて1026字が示されました。増えた漢字は県名に使われている漢字で、すべて第4学年に配当されました。社会科の学習内容に合わせた対応です。これに伴って、各学年の配当漢字が変更になったので、書写の教材作成などでは注意が必要です。

## 2. 中学校書写について

中学校の書写に関する事項は、文字の書き方に関する内容と、文字文化に関する内容で構成されています。文字文化に関しては、小学校で学んだ楷書から行書学習へと進み、目的や必要に応じた書き方や書体の選択ができるようになること、そして、身の回りの多様な表現(書き文字や印刷文字など)を通して、これらを文字文化として捉え、文字の諸相の豊かさを感じつつ文字を書くことなどを指導します。

### ■ 第1学年の変更のポイント

現行の内容と大きな変化はないのですが、現行の「イ漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。」が、改訂では「(イ)漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。」となりました。ややもすると行書学習の目的が理解されないまま指導されることが多いので、注意を喚起したいところです。楷書とは異なる書き方、すなわち、「点画の方向や形の変化」「点画の連続」「点画の省略」「筆順の変化」「丸み」などの特徴を理解した上で、日常的に使うことが行書学習の目的であることを意識させる指導がより求められています。

#### [第1学年]

- (ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。  
(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

### ■第2学年の変更のポイント

現行の内容と同じ内容が示されました。行書の書き方の習熟を図るとともに、行書に調和する仮名の書き方にも習熟することが求められます。行書の特徴を仮名にも転化させ、両者の調和に意識を高めさせる工夫が必要になるでしょう。

#### 【第2学年】

- (ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。  
(イ) 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。

### ■第3学年の変更のポイント

現行では「ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。」とありますが、改訂では「(ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。」と示されました。新たに加わった「身の回りの多様な表現」「文字文化」の文言は、漢字や仮名の成り立ちや歴史的背景、文字が書かれた用具・用材、社会生活における文字の役割や存在意義、活字やデザイン文字と書き文字との関係、文字が褒美の対象となって芸術(書)に昇華したことなどを指していると考えられます。これらの文字文化の豊かさを理解することは、日常生活における書写活動への高い意識につながり、ひいては高等学校芸術科書道への関心にもつながると期待されます。

#### 【第3学年】

- (ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。

今次の改訂では、書写が「知識・技能」に位置づけられたことから、「思考力・判断力・表現力等」の「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」と一線を画すように見えますが、両者を区別するのではなく、常に関連させた指導がなされるように配慮することが大切です。

また、高等学校国語科も大きな変更があります。現行の共通必修科目「国語総合」が、「現代の国語」と「言語文化」に分かれて新しく設けられます。そして、両科目に小・中学校国語科書写の内容が延伸し、深められることとなります。したがって、小・中学校での書写は高等学校芸術科書道だけでなく、高等学校国語科での書写も見据えながら指導することが求められます。

このページをPDFでもご覧いただけます。

新しい学習指導要領を読み解く  
(180KB)

「新しい学習指導要領の方向性」トップ



みつむら web magazine  
授業のヒント、エッセイなど、  
ひと息ついて、楽しめる読み  
物を集めました。



みつむら history  
くるくる回る風車と一緒に、光  
村図書の歴史をたどります。

